

高梁川流域地域づくり連携推進事業 成果の合意書

事業名 : 総社商店街筋町屋及び空き家調査事業
グループ名 : 総社商店街筋町屋及び空き家調査事業実行委員会

高梁川流域地域づくり連携推進事業は、高梁川流域市町に地域課題を解決するノウハウの拡がりを生み出すことを目的として実施するものである。

本事業の実施にあたり、倉敷市（以下「甲」という。）とミルクボランティアハンドブック作成実行委員会（以下「乙」という。）は、目指す成果とそれを測る指標を以下の内容で合意する。また、乙は以下の実現を目指して事業を実施し、甲はその進捗状況を確認し、必要に応じて助言又は指導を行う。

1 ノウハウの拡がり（グループ参加団体間でのノウハウの拡がりに、どのような成果があるか）

(1) 長期アウトカム（長期の成果）

目標	いままで調査を実施した地域ごとに蓄積された実績をもとに、新たに発生し増加する空き家や、維持・保存が危ぶまれる町家の保存・利活用に関する知見が総社地区及び周辺（調査・報告会に参加する連携団体）に広がる。また、他の地域で行われているまちづくりの事例を共有する。
----	--

(2) 短期アウトカム（令和5年度事業の成果）

目標	過去実施された町家・空き家調査での実施・調査方法の改善。また調査結果の活用事例の蓄積。
指標	利活用できる町家・空き家の把握件数:現状 不明 →事業実施後 10件

(3) アウトプット（令和5年度事業の直接の結果）

目標	町家・空き家調査で調査を行う。
指標	調査の実施回数:現状 0回 →事業実施後 8回

2 地域課題の解決（イベント等に参加した住民に対して、どのような成果があるか）

(1) 長期アウトカム（長期の成果）

目標	地域の町家及び空き家の地図を作成することで、地域の住宅物件の状況の可視化を実現。町家及び空き家の状況が目に見える形になることで、物件ごとの利活用方法について検討し、持ち主に交渉を行うきっかけを作る。（歴史的建築物の価値の認識、再生利活用には長い時間がかかるが、活動の成果は景観形成の向上はもとより、地域の価値を高め、誇りをもたらす。）
----	---

(2) 短期アウトカム (令和5年度事業の成果)

目標	地域の町家及び空き家の地図を作成することで、地域の住宅物件の状況の可視化を実現。物件状況が目に見える形になることで、利活用方法について検討することができ、持ち主との交渉を行う。
指標	新規の繋がり空き家・空き店舗の持ち主との再生・利活用の相談件数:現状 0件 →事業実施後 3件

(3) アウトプット (令和5年度事業の直接の結果)

目標	総社商店街筋の歴史的建築物の残存調査を専門家、関連団体、市内外の有志、学生らと地域住民が地域ごとに行い、空き家の状況を実際に調査する中で知ってもらい、広範囲に町家及び空き家が残存することを確認して、持ち主と交渉を行い、利用希望者と物件のマッチングを行う。
指標	地域住民向け報告会・町家調査の参加人数:現状 0人 →事業実施後 100人

令和5年6月29日

甲 倉敷市西中新田640番地
倉敷市
倉敷市長 伊東香織



乙 総社市総社3丁目5番8号
総社商店街通り町屋及び空き家調査事業実行委員会
特定非営利活動法人総社商店街筋の古民家を活用する会
理事長 金丸由記子

